

**16. モノクローナル抗体の等電点と生体内分布の関連に関する検討**

絹谷 清剛 横山 邦彦 秀毛 範至  
孫 保福 油野 民雄 利波 紀久  
久田 欣一 (金沢大・核)

放射免疫シンチグラフィの問題点である高い正常組織放射能の低減を目的に、抗体の等電点を化学的修飾により変化させ、マウスにおける生体内分布の観察を行った。

T101 (抗 pan T-cell 抗原) に異なる 3 種類の化学物質を免疫活性を損なうことなく結合可能であった。この修飾により、抗体の等電点は 5.2 → 10 の範囲で変化した。これらの抗体を  $^{99m}\text{Tc}$  直接標識法で放射能標識した。これらの抗体はマウス正常血清中で安定であった。マウスにおける体内分布には明らかな差が見られなかった。生体内分布を変えるためには、等電点をより大きく変える必要があるのかもしれない。あるいは、正常組織への取り込みには、抗体の帯電状態は関与しないのかもしれない。